

## オ 住宅火災における死者数は7割以上が高齢者

65歳以上の高齢者の住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く。）についてみると、平成25（2013）年は703人と、前年より増加し、全死者数に占める高齢者の割合は70.5%に上昇した（図1-2-6-9）。

## カ 養護者による虐待を受けている高齢者の約7割が要介護認定

平成25（2013）年度に全国の1,741市町村（特別区を含む。）で受け付けた高齢者虐待に関する相談・通報件数は、養介護施設従事者等によるものが962件で前年度（736件）と比べて30.7%増加し、養護者によるものが25,310件で前年度（23,843件）と比べて6.2%増加した。また、平成25年度の虐待判断事例件数は、養

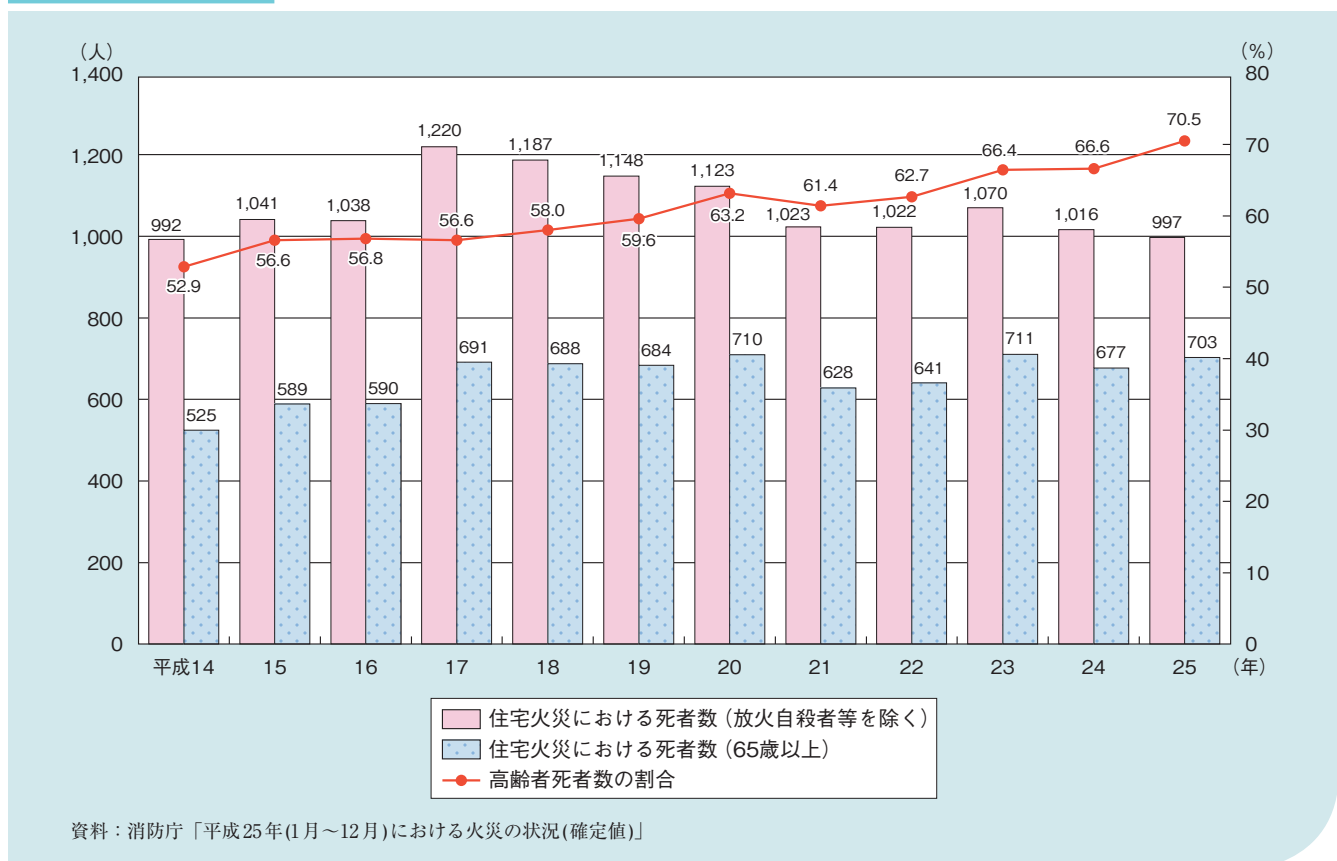
介護施設従事者等によるものが221件、養護者によるものが15,731件となっている。養護者による虐待の種別（複数回答）は、身体的虐待が65.3%で最も多く、次いで心理的虐待（41.9%）、介護等放棄（22.3%）、経済的虐待（21.6%）となっている。

養護者による虐待を受けている高齢者の属性を見てみると、女性が約8割を占めており、年齢階級別では「80～84歳」が24.2%と最も多い。また、虐待を受けている高齢者のうち、約7割が要介護認定を受けており、虐待の加害者は、「息子」が41.0%と最も多く、次いで、「夫」19.2%、「娘」16.4%となっている（図1-2-6-10）。

## （4）高齢者による犯罪

高齢者の刑法犯の検挙人員は、平成25（2013）

図1-2-6-9 住宅火災における死者数



年は46,226人と前年に比べほぼ横ばいであったものの、15（2003）年と比較すると、検挙人員では約1.5倍、犯罪者率では約1.2倍となっている。一方、高齢者の犯罪者率は近年減少傾向となっている。また、25年における高齢者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が73.7%と7割を超えている（図1-2-6-11）。

(5) 高齢者の日常生活

ア 生きがいを感じている人は約7割

60歳以上の高齢者が生きがいをどの程度感じているかについてみると、「十分に感じている」人と「多少感じている」人の合計は約7割である。男女別にみると、女性（67.2%）に比べて男性（63.7%）が低くなっている（図1-2-6-12）。

イ 毎日の生活を充実させて楽しむことに力を入れた人が多い

今後の生活で「貯蓄や投資など将来に備え

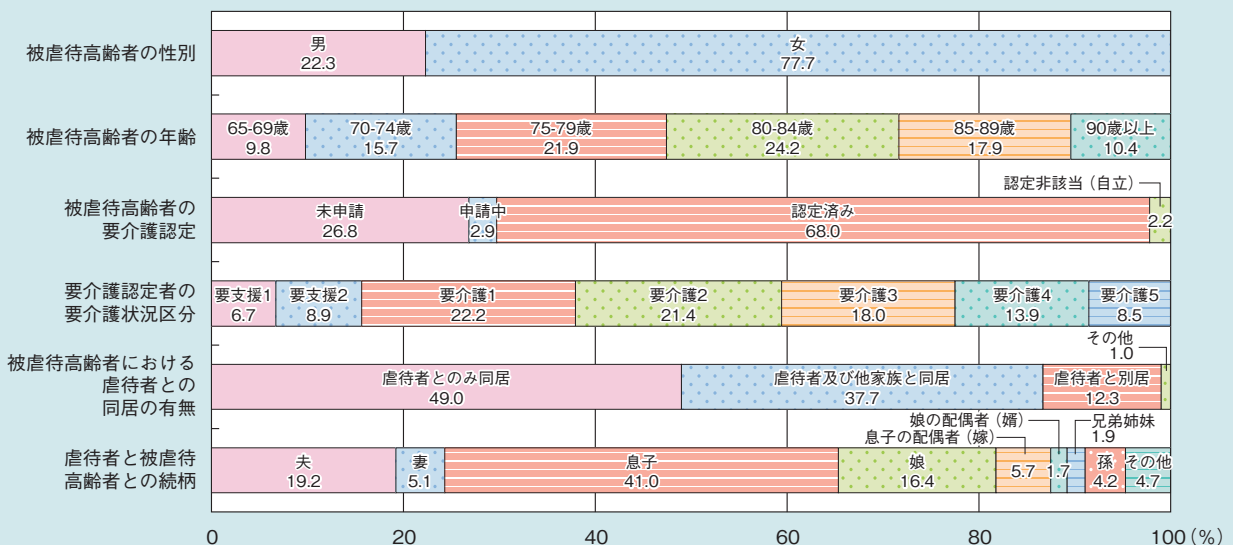
る」ことよりも「毎日の生活を充実させて楽しむ」ことに力を入れたい人の割合は、60～69歳は77.0%、70歳以上は83.1%であり、50～59歳では約5割、49歳以下の各層では4割前後であるのに対して、60歳以上の各層の割合は高い。また、平成15（2003）年と比べると、約7割から約8割に増加している（図1-2-6-13）。

ウ 一人暮らしの男性に、人との交流が少ない人や頼れる人がいない人が多い

60歳以上の高齢者の会話の頻度（電話やEメールを含む）をみてみると、全体では毎日会話をしている者が9割を超えるものの、一人暮らし世帯については、「2～3日に1回」以下の者も多く、男性の単身世帯で28.8%、女性の単身世帯で22.0%を占める（図1-2-6-14）。

近所づきあいの程度は、全体では「親しくつきあっている」が51.0%で最も多く、「あいさつをする程度」は43.9%、「つきあいがほとんどない」は5.1%となっている。性・世帯構成

図1-2-6-10 養護者による虐待を受けている高齢者の属性



資料：厚生労働省「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」（平成25年度）